



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University



YPUドリームアドベンチャープロジェクト
2009報告書

もくじ

ごあいさつ.....	1
スケジュール.....	2
採択企画予算配分表	
各プロジェクトの活動報告及び収支報告.....	3
A部門	
(1) YPU TFT PROJECT～To もにFu れあいTsu ながろう～	
(2) ぶちええじゃんブログ型山口マップ 韓国語版	
(3) La ferme de ceries～県大ばたけ～	
(4) ピアサポーターによる『県大ライフサポートマップ』制作！！	
(5) “すきっちゃんユズキチ” プロジェクト	
B部門	
県大生クリエイターの実績づくりをしよう！	
選考内規.....	26
企画書様式.....	27
成果報告会アンケート集計結果.....	28
選考委員からのコメント.....	30
選考委員会名簿.....	32

YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは…

大学生活をより良くするために学生・院生が自分たちの力を発揮する場として、平成18年度から「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」を実施しています。

YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生活をさらに楽しく豊かにするために、学生（個人やグループ）が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助することで夢の実現を支援する事業です。

〔YPU: Yamaguchi Prefectural University (山口県立大学) の頭文字をとったもの〕

「夢」に向かう、柔軟・自由・飛躍の力を讃えて

学生支援部長 田中マキ子

「YPUドリームアドベンチャープロジェクト」の企画・展開をはじめ、4年が経過しました。学生みなさんの、柔軟で力強く、何よりも自由な発想や行動力を支援したいと思い始めた企画でした。取組みの初年度は、暗がりの中、足元を確認するような感じで、支援しなくてはならない私たちが、実は不安で一杯でした。

そして、4年を経過した今年、見事に大きく成長したことを実感した報告会でした。報告された内容のそれぞれが、たのもしく、そして誇らしく思え、学生みなさんのお一人おひとりが輝いて見えました。こんな小さな・田舎の大学に、こんなに大きな力と夢、そして躍動感と推進力があるとは、誰にも予想できないことかも知れません。

小さな大学は、一人ひとりの顔が見え、互いの個性が確認できる場となります。田舎の大学は、地域の方々の顔が見え、大学生として、地域社会のメンバーとして、自分たちが何をしなくてはいけないのか、教えてくれる場となります。小さく田舎であることが、実は大きく・強い武器であることがわかります。

こうしたメリットを、学生のみなさんは肌で感じ、種々の活動に変換してくださり、多くの財産と莫大なパワーを大学に地域に残して下さっています。この培われた財産と力を、後輩や地域のみなさんに、もっともっと還元し、そして何より学生みなさん方の未来の姿にふり注いでいただきたいと感じます。

YPUドリームアドベンチャープロジェクトは、今後益々発展していくことでしょう。夢に規制や制限がないように、個々が思い思いに描けます。思い描いた夢に向かい、自分を信じ・励ましなが進む過程に、悩みと苦しみ、大きな学びと感動があります。しかしこうした恩恵は、チャレンジした者にしか与えられません。

私の夢は、学生のみなさん、お一人おひとりの存在と息づかいが感じ聞こえる大学、そんな場と機会を提供できることです。共に、互いの夢に向かい、支え・刺激しあって生きましよう。無限の可能性を持つ未来の自分に出会うために。



スケジュール

募集期間	4月13日(月)～5月20日(水)
選考委員会 外部委員の選出	4月30日(木)
応募者事前説明会	①4月22日(水)、②5月13日(水)
選考会	6月2日(火)
選考結果発表	6月15日(月)
各プロジェクトへ経費配分	7月10日(金)
予算執行状況確認	10月1日(木)～10月9日(金)
中間報告(大学HP)	11月1日(日)～11月20日(金)
成果報告会	1月21日(木)
報告書提出期限	1月28日(木)
学生委員会へ結果報告	3月10日(水)

採択企画予算配分表

(単位：円)

	プロジェクト名	代表者	配分額
A-1	YPU TFT PROJECT ～To もに Fu れあい Tsu ながろう～	玉川佑香	52,000
A-2	ぶちええじゃんブログ型山口マップ 韓国語版	佐志原彩華	60,000
A-3	La ferme de cerises～県大ばたけ～	齊藤有香	55,000
A-4	ピアサポーターによる 『県大ライフサポートマップ』制作！！	石倉千恵	80,000
A-5	“すきっちゃんユズキチ” プロジェクト	祁答院知佳	100,000
B-1	県大生クリエイターの実績づくりをしよう！	今田萌美	100,000
合計			447,000



A 部門

YPU TFT PROJECT～To もに Fu れあい Tsu ながろう～
ぶちええじゃんブログ型山口マップ 韓国語版
La ferme de cerises～県大ばたけ～
ピアサポーターによる『県大ライフサポートマップ』制作！！
“すきっちゃんユズキチ”プロジェクト

YPU TFT PROJECT～To もにFu れあいTsu ながろう～

・ 構成員

代表者	： 玉川佑香	(国際文化学科 2年)		
会計	： 藤井里江	(国際文化学科 2年)		
メンバー	： 村上遥香	(国際文化学科 2年)	中元美穂	(国際文化学科 1年)
	井出史恵	(国際文化学科 2年)	二宮祐子	(文化創造学科 1年)
	小宮山明日香	(国際文化学科 2年)	小池亜沙子	(文化創造学科 1年)
指導教員	： 浅羽祐樹	(国際文化学科)		

・ プロジェクトの目的

健康に配慮されたヘルシーメニューの購入金額のうち20円を開発途上国の学校給食1食の費用として寄付する「TABLE FOR TWO」という活動を通して、県立大学の中の“つながり”を強化し、その過程を踏まえて県立大学から地域社会へ、そして国際社会へと“つながり”を広げていく。県立大学の規模の小ささや、学部の専門性などの個性を生かし、県立大学にしかできない形の「TABLE FOR TWO」を確立する。県立大学生が自然な形で開発途上国に対する理解を深める機会を増やし、気軽に社会貢献、そして自らの健康について考えることのできる環境を作る。

・ 活動内容

1. 全学科がつながる！「食」から世界を考える」勉強会

1年間に2回勉強会を行いました。第1回は「食」から世界を考える」をテーマとし、現在の世界の食糧事情や、TABLE FOR TWOの活動について紹介する勉強会を開催しました。この結果、全学科から40名の参加があり、TFTの活動について理解を深めてもらうことができました。第2回は主に1年生が中心となって「健康」をテーマとした勉強会を行いました。



2. 高校生とつながる！県立大学フェスタ 2009～高校生と共に学ぶ～

7月19日(日)には、高校生を対象にした県立大学のオープンキャンパスと同時開催された県立大学フェスタ 2009に参加、世界の食糧状況やTFTに関するブースを設置し、私たちの活動状況を紹介しました。高校生だけではなく、保護者の方や一般の方にもお越しいただきました。その際に、夏季限定ヘルシーメニューとして、豆乳プリン・豚しゃぶサラダパスタのレシピを配布しました。



3. 地域とつながる！試食会～県大から地域へ～

10月25日(日)に、宮野地域交流センターにて地域の方々を招待し、2種類のヘルシーメニューの試食会を開催しました。試食会には、宮野地域から20名の方々に参加していただきました。豆乳味噌煮込みうどん(写真左)と豆腐ハンバーグと野菜を挟んだ県大バーガー(写真右)の2品を試食していただき、メニューの改善点など、多くのアイデアをいただきました。



4. みんなとつながる！華月祭（TFT 試験導入）

11月7日(土)には、山口県立大学祭・華月祭にて、試食会での地域の方々のご意見を取り入れ、改善した豆乳味噌煮込みうどんを販売しました。当日は気温 24℃という恵まれない天候でしたが、190 食売り上げました。また、来店されたお客様に、今回販売した「豆乳味噌煮込みうどん」の手作りレシピを配布しました。今回の売上金のうち、売上個数×20 円は、TFT 事務局を通じて、開発途上国の子どもたちの学校給食となります。



5. 九州とつながる！九州地区 TFT 活動団体報告会

11月14日(土)には、西南学院大学で行われた TFT 事務局員の講演会と共に行われた報告会に参加し、山口県立大学の行う TFT 推進活動や今後の展望を報告してきました。九州地区では TFT の導入が進んでいますが、山口県立大学は中国地方唯一の団体として参加しました。今後も九州地区の TFT 団体と連携しながら活動を進めていく予定です。

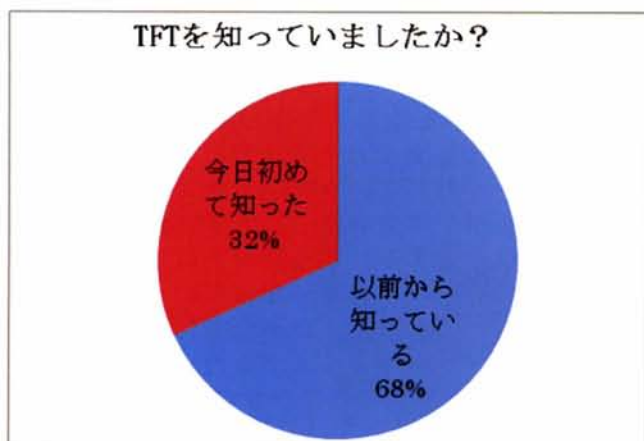
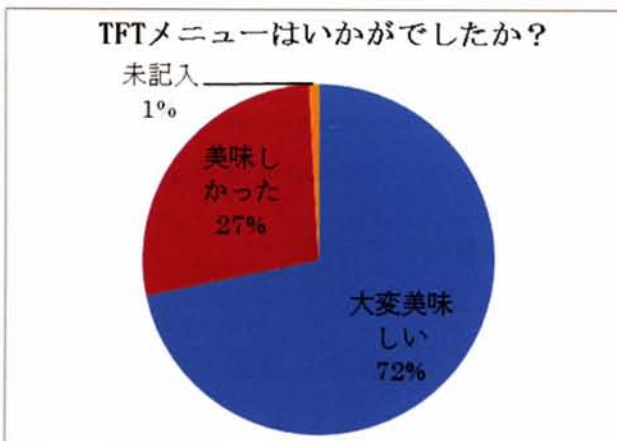


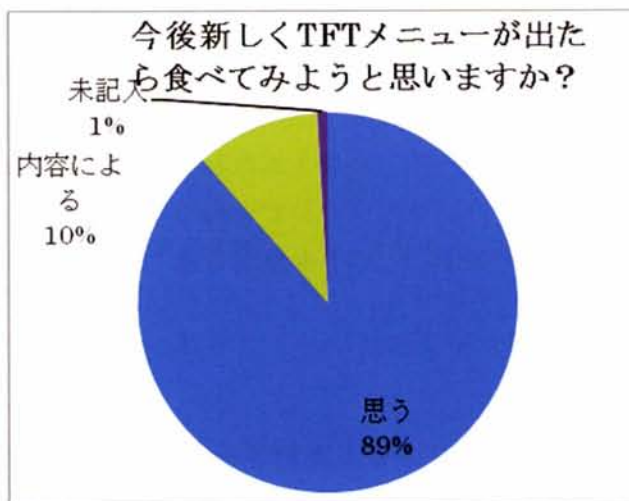
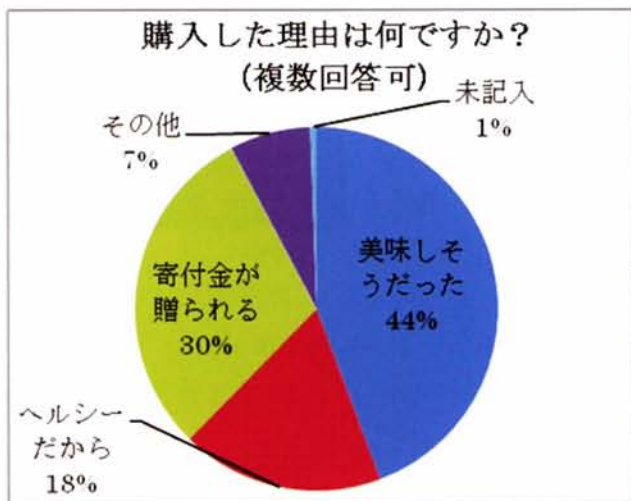
6. 途上国とつながる！中四国地方国公立大学初 TFT 実施！

12月14日(月)から18日(金)の5日間、学生食堂にて「ビューティーウィーク～before X'mas～」と題して、ヘルシーメニューとして「豆乳味噌煮込みうどん (20 円寄付金込み)」と「日替わりヘルシースイーツ (10 円寄付金込み)」を販売し、中国・四国地方の国公立大学で初めて TABLE FOR TWO が実施されました。当日は 5 社のメディアからの取材を受け、学内だけではなく、他大学や地域の方々、教職員のご家族など学外からの食堂の利用もありました。



7. ビューティーウィーク～before X'mas～アンケート





<<アンケートから>>

TFTの仕組みそのものよりも、メニュー自体に魅力を感じて購入する方が多い。味についても、ほぼ全利用者に満足していただくことができた。TFTの認知度についても、TFTの認知度が比較的高く、私たちの広報活動の成果が見られる。継続的なTFT導入を望む声も多くいただいた。

・成果及び感想

既存の「TABLE FOR TWO」という仕組みを使い、T(ともに)F(ふれあい)T(つながろう!)という独自のコンセプトのもとに、「みんな」がHAPPYになるALL-WINを目指し、1年間走り続けた結果、中四国地方の国公立大学で初めてのTFT導入という快挙を達成することができた。

また、本活動を通じて、学部を超えたつながり、地域とのつながり、他大学とのつながり、高校生とのつながり、途上国の子供たちとのつながりなど、従来はなかった「つながり」が生み出された。何より嬉しかったのは、TFTのヘルシーメニューを食べて下さった方々、作って下さった食堂の方々、そしてプロジェクトメンバーの「笑顔」である。この笑顔を、TFT事務局を通じて途上国の子供たちに届けてもらう、「笑顔のリレー」ができたことを、本当に嬉しく思っている。この「笑顔のリレー」を途切れさせないためにも、この活動が継続したものとなるように、私たち自身もバトンを引き継ぎ、今後も更に活動の幅を広げていきたいと思う。

・指導教員のコメント

原点は、開学記念日「学生の主張～大学が輝くためには」。自分たちの大学は自分たちがつくっていくのだという想いで全てが始まった。みんなが「学生を愛し、大学を愛し、大学のある街を愛する」ようになれば、山口県立大学は自ずといい大学になっていくと確信した。彼女たちこそが、自らを常に問い質す姿勢、パブリック・マインドを持っている。私自身、教えられることばかりの伴走だった。ありがとう。「あなた」は私の誇りです。

・収支報告

配分額	52,000 円	
支出内訳	文房具代	4,757 円
	文書コピー代	2,540 円
	華月祭模擬店準備費	31,771 円
	TFT UA 報告会交通費	8,470 円
	Beauty Week POP代	4,462 円
支出合計	52,000 円	
残金	0 円	

ぶちええじゃんブログ型山口マップ 韓国語版

・ 構成員

代表者	： 佐志原彩華	（ 国際文化学科 3年）	
会計	： 原田有紀子	（ 国際文化学科 3年）	
メンバー	： 小野華奈	（ 国際文化学科 4年）	垣下友希 （ 国際文化学科 4年）
	畑野友里恵	（ 国際文化学科 4年）	杉野由可子 （ 国際文化学科 3年）
	森田幸枝	（ 国際文化学科 3年）	山田雄太 （ 国際文化学科 3年）
指導教員	： 林炫情	（ 国際文化学科 ）	

・ プロジェクトの目的

『ぶちええじゃん!ブログ型山口マップ韓国語版』を作成し、山口県を紹介することで、山口県の観光客増加を図り、同時に地域貢献につなげる。さらに、県立大学の韓国語を専攻している学生がブログを作成することで本学のPRにも役立てる。

・ 活動内容

1. 「山口のいいところ調査」アンケート作成（6月）

○私たちが住んでいる山口県の良さを知ってもらうためにはどのようなアンケート内容にすればよいか話し合い、「観光地・レジャー・行事・お土産・飲食店・カフェ・穴場スポット」の7つのカテゴリーに分類しました。また、県立大学の良さも紹介したいと考え、「県立大学のいいところ（場所・行事）」についても調査することにしました。



アンケート用紙

2. アンケート調査実施（7月）

○目的：私たち韓国語学研究室の学生がお勧めする山口だけでなく、他の県立大学生・教職員のお勧めする場所を調査することで、より充実した内容のブログにするため。

○調査時期：2009年7月中旬

○対象：山口県立大学の学生（92名）、教職員（8名） 計100名
7つのカテゴリーと山口県立大学のいいところについて1位から3位まで記入してもらいました。



アンケートの回収用紙

3. アンケート集計（8月）

○7月に行ったアンケートを集計し、1位から3位まで記入してもらったものを1位：3点、2位：2点、3位：1点として点数化し、合計点の多いものからランキングにしました。



以下はアンケートの結果です。

<観光地>

1位:秋吉台 2位:錦帯橋 3位:瑠璃光寺

<レジャー>

1位:海響館 2位:常盤公園 3位:サファリランド,徳山動物園

<行事>

1位:ちょうちんまつり 2位:海峡花火 3位:蛍祭り

<お土産>

1位:外郎 2位:ふく 3位:月でひろった卵

<飲食店>

1位:ピッコロ 2位:Shiva 3位:東天閣

<カフェ>

1位:ni-go 2位:Café Mac 3位:FRANK

<穴場スポット>

1位:一の坂川 2位:大平山 3位:足湯

4. ブログ開設準備、現地調査(9月)

○ブログは写真や動画の容量が大きく、韓国語が使用できるという点を重視して、「FC2」にしました。

○現地調査ではちょうちん祭りや萩の笠山などに行きました。

5. ブログ開設、現地調査(10月)

○ブログをオープンさせました。まだまだ不足な点が多いですが、とにかく記事をアップしていけるようにがんばりました。

○現地調査は Zen、Café Mac、錦帯橋、長府毛利邸、長府庭園に行きました。

調査費や交通費をあまりかけず様々なところに調査に行けるように、2人組に分かれて調査を行いました。ブログの記事で写真をたくさん載せられるように、写真をたくさん撮るように心がけました。



ブログ開設準備中



<現地調査>
ちょうちん祭り



Café Mac



萩一笠山



錦帯橋

6. ブログ更新、現地調査（11月～1月）

○直接調査に行ったところを記事としてブログに掲載できるように、文章を作成しブログ更新を続けました。日本語の記事を韓国語に訳すのは難しかったですが、色や文字の大きさを変えたり、絵文字を利用したり、楽しく見ることのできるブログを心がけ、リピーターが増えるよう努力しました。



秋吉台サファリパーク

○現地調査は海響館、Café 珈紋、秋芳洞、サファリランド、徳山動物園、常栄寺や下松健康パークに行きました。



常栄寺

7. ブログの広報活動

○mixi—ブログを広める活動は主に口コミでしました。利用者の多いSNSによって友達や知り合いに広めました。

○名刺カード—自分たちでデザインし、名刺カードを作成しました。関釜フェリー乗り場などに設置をお願いしたりする予定です。

○リンク—山口県立大学のサイトをリンクに繋げました。今後は山口県の観光サイトなどにもリンクを繋げてもらえるようお願いする予定です。



名刺カード

・成果及び感想

このプロジェクトの成果として、ブログを通して日本人・韓国人を問わず、山口の魅力を多くの人に伝えられました。それと同時に、山口のPRをすることで私たちも山口の特産物や行事など、山口の良さを再確認することができました。そして、大学のURLリンクやYPUのロゴ使用など、ブログ広報活動を通して山口県立大学のPRにもつながったと思います。また、韓国語でブログを作成することで、自分の韓国語能力に自信が付き、韓国語の勉強が今まで以上に好きになりました。

このプロジェクトを進める中で、メンバーの予定がなかなか合わず、計画的に進められなかったり、意見がまとまらなかつたりしたことも度々ありました。しかし、このプロジェクトを進めていく中で、一人ひとりが責任感を持ち、互いに助け合うことの大切さを学びました。これからも私たちはこのプロジェクトで築いたつながりを大切にしていきたいと思っています。

・指導教員のコメント

最初は、情報収集や韓国語の翻訳にかなり戸惑う感もありましたが、ブログという媒体を通して、地域や韓国に山口県の魅力を発信できたのは、彼らにとっては色々な面で刺激になったのではないかと思います。新しい情報をどのくらいの頻度で更新して行くのか、またどのように活動の輪を広げて行くのか今後の課題になると思います。

自分たちの活動に自負と責任を持って、今後も活動を続けて欲しいと願っています。

・収支報告

配分額		60,000 円
支出内訳	調査費	28,725 円
	交通費	17,445 円
	材料費	10,113 円
		円
		円
支出合計		56,283 円
残金		3,717 円

La ferme de cerises～県大ばたけ～

・構成員

- 代表者 : 齊藤有香 (栄 養学科 2年)
会計 : 木村英恵 (栄 養学科 2年)
メンバー : 川口慶子 (社会福祉学科 2年) 田邊彩華 (栄 養学科 2年)
 中村葉月 (文化創造学科 2年) 原田圭子 (栄 養学科 2年)
 松浦咲紀 (国際文化学科 2年)
指導教員 : 小川雅弘 (生活環境学科)

・プロジェクトの目的

- ・県立大学が自然の中に立地しているという特徴を生かして、他の大学には無い大学内での地産地消、他にも県立大学ということで地域の方々との交流を通して地域の活性化を図る。
- ・大学敷地内にある資源を有効活用して、大学生に対して食の楽しみ、素晴らしさを知ってもらう。
- ・大学生が土と触れ合うことにおいて食の大切さ(食物が育つのはいかに大変であるか)を体験してもらう。

・活動内容

1. 県大の中の資源の活用方法と梅エキス試作(6月)

- まず初めに大学の資源について知ろうということになり、大学の中を探索しました。

【発見した資源】

梅・柿・栗・グミの実・謎の実(後にカリンと判明)・土・どんぐり・イチョウ・银杏・もみじ

- 6月にちょうど梅の実がなっていたので、学生支援部の方に使用する旨を伝え、なっている実の半分ほどを収穫(地域の方で使用する人がいる為)し、11月の華月祭に備えて、梅の実エキス(梅の実+氷砂糖)を作りました。



2. 夏休み明けに向けての作物栽培の開始(6月・7月)

- 6月下旬から7月上旬にかけての梅雨の合間には大学の土地を利用してサツマイモの苗を植えました。梅雨の時期と今年の大夏で半分近くが浸水してしまいました。



↑最初は何も無い草原からの始まりでした

- サツマイモと並行して初心者向けの作物であるオクラの種を植えました。また、学生支援部の方からオクラの苗と、イタリアンパセリの苗を頂いたので畑に植えました。



- 夏休みは経費節約&環境にも優しいペットボトル製のジョウロで水を交代であげて育てました。

3. 収穫と華月祭に向けての準備(9・10月)

- 夏休み明けにオクラの収穫、サツマイモの収穫を行いました。
サツマイモの方は夏の水害のため収穫量は手のひらサイズのサツマイモがわずかでしたが、オクラの方は大きいのが20本ほど収穫できました。夏休み中ということもあり、サツマイモやオクラは県大の寮の人へのおすそ分けやプロジェクトのメンバーで消費という形になりました。
- 9月下旬から10月上旬にかけては大学の敷地内に栗の実がなっていたので収穫をしました。大きな栗が40個ほどとれました。
11月の華月祭に向けての下準備として皮をむき、砂糖をまぶして冷凍保存をしました。



4. 華月祭での梅ジュースと栗ご飯の提供(11月)

- 11月の初めには、6月に漬けておいた梅エキスを湯または水で薄めたジュースと、9月下旬に冷凍保存しておいた栗を使って栗ご飯を作り、華月祭で提供しました。栗ご飯は30食、ジュースは50杯と、食数限定での販売でしたが、たくさんの方に県大でとれた作物の味覚を味わってもらいました。栗ご飯を食べた人の中には「県大で梅や栗がとれることなど知らなかった」という人が多かったり「美味しい」と感想を貰ったり好評でした。



5. 冬野菜の育成と収穫

- 10月から11月にかけての夏野菜の収穫が終わったところに冬野菜である白菜の苗と水菜の種を蒔きました。年末から冬休みにかけてペットボトルで水遣りをしたり、追肥したりして育てました。
水菜の丈が15センチ位になった時に収穫し、学生の方達への無料配布やTFTさんの主催の豆乳味噌煮込みうどんの上にお邪魔させていただきました。
宮野の異例の冬の寒さのためか、初めての農地での農作のためか、少々丈が短い水菜が出来上がりました♪
- 白菜については苗を試しに3本植えてみましたが、土壤が合わないのか少し小さいので様子見中です。



6. TFTさん主催の「豆乳味噌煮込みうどん」の上に…

- 冬休み前にTFTさんが豆乳味噌煮込みうどんを学食内で提供することだったので、何かお手伝いが出来ればと思い、上に少し水菜を入れさせていただきました。
本来は収穫量に見合って水菜のメニューを考案する予定でしたが、十分な収穫量の見込みが立たなかったため、薬味程度に登場しました。



宣伝方法として

メンバーが描いてくれたポスターを食堂の各所に貼り、提供のお知らせをしました。TFTさんの一週間の提供のうち、提供予定数の一番少ない金曜日に提供しました。しかし、提供予定数よりもかなりの量が出たらしく、大量の水菜を提供したつもりでしたが少し不足気味のようでした。



7. その他

●今回の活動を通じた事によってメンバーの人達から感想を貰ったところ、「大学生活において土に触れたり、ご飯を販売するということは滅多に出来ないので貴重な体験になった」との感想をいただきました。また、余った水菜を使って水菜鍋と鶏肉のみぞれ鍋をしました♪



●今後の予定

活動を続けていくと共に、県大ばたけは桜圃会による桜の森育成プロジェクトの支援が出来ればと考えています。今年に出来なかった学生協賛のメニューの作成も考え中です。地域共生演習における環境米とのコラボが何かしらの形で出来れば思っています。また、県大の学生耕作隊として他の農家の方の講演会や、農業の方法等を取り入れて学食内の野菜を提供出来るようにするのが目標です。

・成果及び感想

今年は活動開始の年ということで、考えていた全てのことを実現することは難しいかなと考えていましたが、予想以上のことが出来たのではないかと考えています。夏の水害で若干サツマイモの収穫量が少なかったものの、オクラや水菜が順調に育ったため、比較的豊作でした。一番の目標である華月祭での栗ご飯&梅ジュースの提供も無事成功し、冬野菜も少しずつではありますが育っているので温かい目で見ています。TFTさんとも少しではありますがコラボが出来たので、大学の資源を無駄にしないためにも来年もコラボしていければと思います。数点反省点を挙げるとしたら、オクラの収穫が遅かったため何本か育ちすぎて食べられなくなってしまったことと、人数が7名と少ないため、出来る事が限られていること、学校の敷地の確認が出来ず、開墾が遅れたということが挙げられました。来年も引き続き活動を行う予定なので、今年の反省を生かして今後役に立てていければよいかと思いました。

・指導教員のコメント

初の計画予定であった6品種の内、サツマイモとオクラの栽培に成功した事は素晴らしい事だと思った。畑作りから全て学生諸君の手でやれた事は、今後の活動に大きな成果であったと思う。本当にご苦労様でした。

・収支報告

配分額		55,000 円
支出内訳	農作費	13,348 円
	華月祭出品材料費	6,248 円
	広告費	2,549 円
		円
		円
支出合計		22,145 円
残金		32,855 円

3. ロコミやお得情報などの収集

利用頻度の高い店や、店に関する情報や感想などを、ピアサポーター内で情報収集し、それを“先輩のロコミ”として、マップ内に新たにページを作成しました。



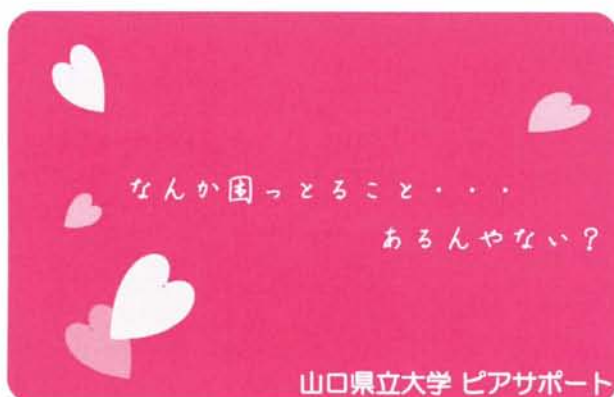
4. “マップ”と“ピアカード”のデザイン・編集

“マップ”と“ピアカード”のデザインや編集を行っていく際には、より見やすく、新入生に興味を持って活用してもらえよう、工夫を凝らして考えていきました。

ピアサポート活動の開催場所、時間帯を記載した“ピアカード”のデザインは、桜の花をイメージし、桜の花びらを散りばめました。



【ピアカード】



活動時間

前期	月	火	水	木	金
昼休み		○	○		○
16:00~17:00		○	○		
後期	月	火	水	木	金
昼休み		○	○		○
16:00~17:00					

場所:D館 1F 実習室(保健室前)

〈学生による、学生のための、相談活動です。
気軽に入ってきてください!〉

マップの題名は「宮野っちよる!？」としました。

この意味は、山口弁で“～している?”という意味を“～しちよる?”を表すことから、題名にインパクトを持たせるため、「宮野っちよる!？=宮野を満喫してる!？」という意味合いで考えました。

1枚開くと、先輩からのロコミを特集したページが現れ、さらにページをめくると、宮野周辺の地図が現れるという仕組みになっています。

そして、裏表紙には、ピアサポート活動の説明を記載しました。

これらの作業を繰り返し、ピアサポート活動で話し合っていくことで、“ピアサポーターの視点”を全面に押し出したマップを作成していくことができました。

(マップは17ページで紹介)

・成果及び感想

今回作成した“マップ”と“ピアカード”は、2月に完成予定です。完成した“マップ”と“カード”は、4月に新入生全員に配布することになります。今回リニューアルした“マップ”と“ピアカード”を、日頃の活動やオープンキャンパスで配布し、ピアサポート活動を、多くの学生に活用してもらおうきっかけにしていきたいと考えています。また今回、ピアサポーターの視点を取り入れて作成したことで、ピアサポート活動の認知度の向上、そして利用者増加も見込んでいます。

私たちは、宮野での生活が新入生にとってより良く、充実したものになって欲しいという願いを形にするため、制作をしてきました。制作の過程においては、どのような構成・デザインにしていけば、学生が身近に使用していくことができるのかを考えていき、その中で行き詰まることも多く、“新しいものを作る”ことの難しさを痛感しました。

しかし、多くの方からの協力のおかげで、無事に完成までもってこることが出来て、本当によかったです。そして、上手くいったことも、なかなかスムーズにいかなかったことも、どれもとても良い経験になったと思います。

今後の展望は、

1. “ピアサポーターの視点”に限らず、学生全体から情報収集を行うこと。
2. 宮野にお住まいの方々との触れ合いを重視した内容を取り込むこと。
3. 「学生の主張」で主張した「支えあいの風土」というピアサポートの最終目標を実現していくこと。

ピアサポート活動では、相談に来る学生の手助けをするだけでなく、ピアサポーター同士が支え合っています。

これを学内全体に、ひいては宮野地域全体に広げていければと考えています。

・指導教員のコメント

手書きのきれいな絵のマップと桜のデザインのカードには、新しく本学に入ってくる後輩が山口宮野での新生活を心地よくスタートしてほしいという願いと、何か困ったことがあれば手助けしますよという心意気があふれています。このマップの制作過程を通して、ピアサポーターの母校や後輩に対する並々ならぬ愛を感じました。それはとりもなおさず、20人前後のピアサポーターの面々が、日頃の活動を通して、助けあい支え合う風土を築いているからであろうと思います。

・収支報告

配分額		80,000 円
支出内訳	印刷費	70,000 円
	材料費	3,380 円
	文房具費	1,674 円
	コピー代	2,280 円
		円
支出合計		77,334 円
残金		2,666 円

“すきっちゃ！ユズキチ”プロジェクト

・ 構成員

- 代表者： 祁答院知佳（ 栄 養学科 4年）
会計： 吉田英美（ 栄 養学科 4年）
メンバー： 河北早苗（ 栄 養学科 4年） 円山あい（ 栄 養学科 4年）
指導教員： 藤野加奈子（ 栄 養学科 ）

・ プロジェクトの目的

長門ゆずきは山口県特産のカンキツで、県をあげてその品質特性や栽培技術に関する研究が行われている。山口県の長門、萩、下関地域を中心に栽培、県内各地に出荷・販売されているが、一般家庭にはあまり普及していないように思われる。その理由として、山口県内における長門ゆずきの知名度が低いこと、店頭での販売方法や利用方法の工夫が不十分であることなどが考えられる。そこで私たちは当初、商品開発や販売方法の考案により長門ゆずきの知名度向上や販売促進を図ることを目的として本プロジェクトを立ち上げた。しかし、情報収集を通して感じた長門ゆずきを用いた既存商品の多さや、1年未満という限られた期間内で商品開発の成果を出すことの難しさを踏まえてプロジェクトの方向性を見直し、一般の消費者に対して直接「長門ゆずきとは何か」「長門ゆずきの利用方法にはどのようなものがあるか」等の『長門ゆずきに関する情報発信による、長門ゆずきの知名度や利用頻度の向上』を目的とした。

・ 活動内容

1. 長門ゆずきに関する情報収集

①栽培地域における長門ゆずきの利用方法を学ぶ

実際に長門を訪問し、昼食を提供して下さった長門の主婦の方々に利用方法についてお聞きした。その結果、サラダやお刺身等に利用するということを教えていただいた。

②長門ゆずきの栽培方法を知る

長門ゆずきの栽培方法を見学するため、山口県農林総合技術センターを訪問させていただいた。写真のように青々とした長門ゆずきがたくさん実っていた。樹高は思ったより低く 150 cm 程度だった。



青々と実った長門ゆずき

2. 長門ゆずきを用いた料理の考案・レシピ作成

長門ゆずきを家庭で使用してもらえるよう、消費者へ直接利用方法を提案することを目的に料理レシピの作成を行った。

作成したレシピは山口県農林水産部流通企画室と連携し、県産農水産物やその加工品をより多くの人々が身近に感じ、利用してもらう目的で開設されているホームページの「まるごと！やまぐち.net」の長門ゆずき特集に掲載された。

【考案した料理】

- ・鶏のからあげ（たれに長門ゆずき果汁を使用）
- ・あじの南蛮漬け（つけ汁に長門ゆずき果汁を使用）
- ・きゅうりとえびの酢のもの



- ・ドレッシング
- ・瓦そば（長門ゆずきちスライスをトッピング）
- ・レアチーズケーキ など



3. 学生食堂での「長門ゆずきちフェア」の開催

学生にとって長門ゆずきちは普段の食生活ではあまりなじみがなく、認知度は高くない。そこで、本学の多くの学生および教職員が利用する学生食堂で長門ゆずきちを実際に食べる機会を設けることにより、ゆずきちの良さを知ってもらうことを考えた。フェアの実施に際しては、学生食堂運営業者に長門ゆずきちを使用した献立レシピを提案し、調理および提供を依頼した。

【期間】

- ・平成 21 年 10 月 5 日（月）～9 日（金）

【内容】

- ・日替わり定食としてゆずきちを使った定食の提供
 （10月6日：長門ゆずきち果汁を使用した鶏のからあげ定食
 10月8日：長門ゆずきち果汁を使用した魚の南蛮漬け定食）
- ・10月7日：長門ゆずきちを使用した単品料理（酢のもの）の提供
- ・長門ゆずきちソフトクリームの提供
 （ソフトクリームに長門ゆずきちシロップとスライスをトッピング）
- ・長門ゆずきちの情報を掲載したPOPを学生食堂の机に配置
- ・提供メニューのレシピを自由に持ち帰ってもらうためレシピの配布を実施



4. 「お弁当の日」活動での長門ゆずきちアピール

10月21日に実施された「お弁当の日」活動に参加した学生を対象に、長門ゆずきちを使った鶏のからあげを提供した。

「ご飯に合うおかず」というテーマのもと、参加者 33 名に長門ゆずきちからあげをふるまった。参加者に長門ゆずきちの説明をしたところ、長門ゆずきちを知らない学生もおり興味深く聞いてもらえた。また、多くの学生から料理の味について良い評価を得られた。



5. 「ふるさと産業フェスタ in 長門」での長門ゆずきちに関するパネル出展

ふるさとの「食」にまつわるブースを市民が聞き、学び、楽しみ、ふるさと産業に対する理解や関心を深めることを目的に山口県、(財)自治総合センターの主催で開催された「ふるさと産業フェスタ」(11月21日)に参加し、来場者の方に長門ゆずきちを知っていただくため



長門ゆずきちを使った料理レシピの配布および本プロジェクトの活動内容について説明を行った。このフェスタには、長門ゆずきちを実際に栽培されている農家の方も来場されており、生産者の方との交流ができたほか、二井知事からは、スタチやカボスと長門ゆずきちの成分等の違いをまとめたパネルを作ると良いとのアドバイスを受けた。



6. 「食育特別講演会」での長門ゆずきちパネル展示

本学で開催された食育特別講演会「地域に根ざした食育～地産地消を生活に生かす～」(12月19日)にて、地産地消に関する取り組みとしてプロジェクトの紹介ブースを設置し、パネル展示を行った。

本学の学生だけでなく学外からの来場者にもパネルを見てもらう機会となった。



・成果及び感想

本プロジェクトを通して、まずは私たち自身が栽培方法や利用方法など長門ゆずきちに関する知識を深めることができ、それと同時に食品の生産や地産地消について考える機会となった。

学内での活動として学生食堂での「長門ゆずきちフェア」の企画や「お弁当の日」活動への参加から、学生や教職員に対し長門ゆずきちに関する情報提供と、長門ゆずきちを利用したメニューを実際に提供することができた。学外に向けての活動としては、県農林水産部流通企画室との連携による考案レシピのインターネットへの掲載や、「長門ゆずきちフェア」への山口県の報道発表やテレビ局による取材などを通して幅広い情報発信を行うことができた。また、「ふるさと産業フェスタ in 長門」でのパネル展示では、本プロジェクトの取り組みを一般の方々に加えて二井知事にも知ってもらうことにも繋がった。

今回の取組では、長門ゆずきちの知名度や利用頻度の向上に私たちの活動内容がどの程度有効であったかについては評価できなかったことが課題として残ったが、学内外におけるイベントの企画・参加により、長門ゆずきちを山口県民の方に知ってもらう機会を作ることができたのではないかと考えている。

・指導教員のコメント

情報収集での気付きから、当初の予定実施内容を一部変更するという経緯もありましたが、早期からの計画的な活動実施と他のアプローチへのスムーズな切替えにより、学内外において「ゆずきちの認知度向上」の一助となる活動ができたのではないかと思います。

本プロジェクトを通して得た経験が、今後メンバーの皆さんの食に関する情報提供者として、あるいは受け手側としての場面で大きな力となることを願っています。

・収支報告

配分額	100,000 円	
支出内訳	文房具費(インク、紙等)	13,279 円
	料理・製菓材料費	16,434 円
	ディスプレイ用品一式	6,195 円
	通信費	30 円
		円
支出合計	35,938 円	
残金	64,062 円	



B 部門

県大生クリエイターの実績づくりをしよう！

県大生クリエイターの実績づくりをしよう！

・ 構成員

- 代表者 : 今田萌美 (国際文化学科 3年)
会計 : 藤板朋代 (文化創造学科 2年)
メンバー : 植木ひとみ (文化創造学科 2年) 谷口翠 (社会福祉学科 2年)
 岡奈津子 (文化創造学科 2年) 安木絵里香 (社会福祉学科 2年)
 新谷希 (文化創造学科 2年) 貞木梨沙 (文化創造学科 2年)
指導教員 : 水谷由美子 (文化創造学科)

・ プロジェクトの目的

県立大学の学生が中心になって活動しているグループ、「山口県立大学芸術サークル SCC」の実績づくりを目的に企画しました。芸術というと、美術だけを想像しがちですが、それだけではなく、立体作品や服飾といった多方面からアプローチし、「何かをつくること」が好きなメンバーで集まりました。ただ「何かをつくる」だけでなく、具体的な実績をつくるために、私たちは作品展を企画し、開催することにしました。作品展を開催することで、作品制作への意欲向上、他人から自分の作品を評価してもらい新たな視点を発見する、といった成果が得られると考え、それを目的に、メンバー一丸となり、プロジェクトを始動させました。

・ 活動内容

1. 10月に作品展開催を目指す(6月)

- 毎週月曜日、金曜日のサークル活動の時間に話し合う
- 県内で行われるイベントを調査する
 - ・ 山口県内のイベントに参加することで、地域に触れる
- 『アートふる山口』に参加することを決める
 - ・ 秋にあるイベント(10月に開催できる)
 - ・ 山口市内開催のイベントなので、行動しやすい



2. メンバー集め(7月上旬)

- 開催へ向け、メンバーを集める
 - ・ 大学内での張り紙によるメンバー募集
 - ・ 友人内での呼びかけ

3. 作品展のコンセプト・テーマ決定(7月下旬)

- 作品展のテーマを『music』に決定
 - ・ 「老若男女に共通して、生活の身近にあるもの」



4. 作品制作、下準備(8月・9月)

- 共通のCDをメンバーに配布
- 夏休みを利用し、作品を制作
- 会場内ディスプレイについて話し合う
 - ・ 9月下旬に会場を下見
 - ・ 会場の掃除

○作品展開催の広告制作・宣伝

- ・ポスターの製作・配布（大学・YCAM・会場）
- ・鮮やかな色彩 ・音の集合のようにも見える
- ・一目で吸い寄せられるようなデザイン
- ・フライヤーの制作・配布（大学・YCAM・商店街の店舗）
- ・ソーシャルネットワーキングサービス（mixi など）を活用



5. 「アートふる山口」当日（10月3・4日）

○「アートふる山口」に参加

- ・2日間で136名来場 ・アンケート70枚回収
- ・参加型作品の設置



6. 「アートふる山口」反省会

○メンバー間での意見交換

- ・良かった点 ・悪かった点（改善点）
- ・次の企画に向けて

○アンケート集計（結果は10に表記）



7. 華月祭に向けて準備

○同メンバーで作品展を開催することを決定

○「アートふる山口」での反省を活かし、改善を図る

- ・作品配置 ・アンケート内容の変更
- ・パネル制作（SCC紹介のため）



8. 華月祭当日（11月7・8日）

○山口県立大学文化祭「華月祭」参加

- ・1日目87名、2日目70名の計157名が来場
- ・アンケート124枚回収

9. 華月祭反省会

○メンバー間の意見交換

- ・10月の作品展から変化はあったか
- ・次の企画に向けて



10. アンケート集計結果

○「アートふる山口」作品展

良かった点

- ・大学生らしい作品だった
- ・若さがみなぎっていた
- ・参加型作品があった
- ・呼び込みに元気があった



悪かった点

- ・作品数が少ない
- ・作品配置／展示方法
- ・SCC という団体が何なのか良く分からない
- ・アンケート形式（字が小さい・記述式は面倒）

○華月祭作品展

良かった点

- ・作品数が多い
- ・大学生らしい作品だった
- ・配布型の作品があった
- ・作品配置（作品に番号を振ることで、
流れに沿って作品を見ることが出来た）

悪かった点

- ・展示場所の分かりにくさ
- ・作品配置（額のガラス面に照明が反射している）



11. 「アートふる山口」と華月祭の変化

○改善点

アートふる山口→華月祭

- ・作品数が少ない（15作品）→作品数の増加（25作品）
- ・SCC という団体が何なのか分かりづらい→SCC 紹介パネルの作成
- ・アンケート形式→文字を大文字・太字にする
記述式の質問を減らす。バインダーの導入
- ・作品配置→作品を等間隔に並べる。系統別に分ける



12. 企画を終えて

○反省

- ・メンバー間での情報共有ができていないことがあった
- ・作品配置にまだまだ考えるべき余地があった
- ・テーマを活かしきれていなかった

○次の企画へ向けて

- ・3月下旬に作品展開催を決定
- ・この企画での経験を活かし、活動する



○展示した作品（一部）



・成果及び感想

一年間を通して活動してきて実感したことは、人を集め、企画を立ち上げ、イベントを開くことの大変さでした。今回は、YPU ドリームアドベンチャープロジェクトに参加することで、2度も作品展を出すことができました。限られた時間の中で、ミーティングや制作を行うことは、簡単ではありませんでしたが、メンバー全員で協力し合い、作品展を無事終えることができました。作品展終了後の反省会では、自分たちに足りないものは何かを指摘しあい、少しでも次の企画へ向けて、改善を図ろうとメンバー全員で考えていきました。

県内の大きなイベントに参加したこと、地域の方と交流できたことは私たちにとって大きな成果でした。しかし、それ以上に大きな成果だと感じたことは、メンバー全員で試行錯誤し、企画を動かしたことです。どんなことをすれば、より多くの方に来てもらえるかアイデアを出し合ったり、開場ギリギリまで会場ディスプレイに気を配ったりと試行錯誤することで、作品をつくるだけでなく、作品展を開くことでしか気づくことのできなかつたことに、気づくことができました。自分たちが行動し企画することで、誰かを笑顔にすることができて良かったです。私たちはこれからも制作活動をつづけ、外に出し続けていきたいと思えます。

・指導教員のコメント

今田萌美さんを含む13名のクリエイターたちは、純粋に表現したいという情熱で集まり、組織を作りました。今後は、新たな企画でさらにレベルアップを目指していてもらいたいと思います。そして彼女たちの創造の場が地域の人々の芸術鑑賞の機会であり、また作り手と鑑賞者の交流の場になって、その輪が広がって行くことを祈っています。

・収支報告

配分額	100,000 円	
支出内訳	文房具費	41,971 円
	印刷費	14,668 円
	会場ディスプレイ費	7,895 円
	参加費、謝礼	6,500 円
		円
支出合計	71,034 円	
残金	28,996 円	

YPUドリームアドベンチャープロジェクト選考内規

(名称)

第1条 本事業の名称は、YPUドリームアドベンチャープロジェクトとする。

(目的)

第2条 学生・院生が日頃から思っている、大学生活をさらに楽しく、豊かにするための学生独自の企画を広く募集し、大学の活性化を図る。

(応募資格者)

第3条 本事業に応募できるのは、本学に在籍している学生及び院生とする。

2 応募者は、個人・グループのいずれでも可とする。

(応募書類)

第4条 応募者は、プロジェクト企画書(別紙様式)を提出しなければならない。

2 翌年の1月末日までには成果が出せる内容でなければならない。

(応募先)

第5条 作成したプロジェクト企画書は、学生支援部学生活動支援センターに提出しなければならない。

(応募期間)

第6条 別途定められた期間とする。

(選考委員)

第7条 期間内に提出されたプロジェクト企画書は、公正かつ厳正に選考されなければならない。

2 学長、副学長、副理事長、学生支援部長、学生委員会代表、外部委員、学生代表から成る選考委員会で選考する。

(採用決定)

第8条 採用決定は、原則として6月上旬を目途とする。

(助成金及び採択件数)

第9条 採択された企画に対しては、内容に応じて助成金を給付する。

2 高額な助成金給付企画については、1次選考後に簡単なヒアリングを行うこととする。

(成果報告会)

第10条 助成金を給付された企画については、翌年1月に開催する成果報告会で、その成果を発表しなければならない。

(その他)

第11条 この規定に定めるもののほか、YPUドリームアドベンチャープロジェクトの運営について必要な事項は、所長が定める。

附則 この規定は、平成20年5月28日から施行する。

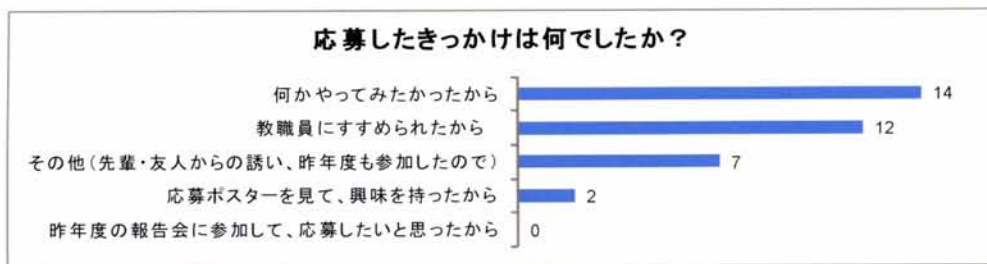
平成 21 年度 プロジェクト企画書

プロジェクト名		カテゴリー A					
応募者	代表者	氏名:	学科	年	Tel:	—	—
		Mail:		@			
	会計担当	氏名:	学科	年	Tel:	—	—
		Mail:		@			
	指導教員	氏名:	所属:	Tel:		—	—
	プロジェクト参加者	氏名:	学科	年	氏名:	学科	年
氏名:		学科	年	氏名:	学科	年	
氏名:		学科	年	氏名:	学科	年	
必要予算	総費用	円					
	内訳						
プロジェクトのねらい							
プロジェクトの成果							
プロジェクトの進行計画	期間	内容（具体的に記入してください）					

※太枠内のみ記入。資料がある場合は添付してください。

成果報告会アンケート集計結果

◎ YPUドリームアドベンチャープロジェクトに応募したきっかけは何でしたか？



◎ 今回のプロジェクトを通して、どのようなことを学びましたか？

《情報の共有》

- ・より多くの人々に効果的に情報を伝える難しさ。
- ・メンバーみんなの意見をうまくまとめることの難しさ（3人）。
- ・メンバー間での情報共有や意思疎通がとても大切だということの再認識。

《チームワーク、連携》

- ・チームワーク、人を集める大変さと楽しさ（2人）。
- ・学内だけでなく、学外との連携の大切さ、難しさ。
- ・「人と人との繋がり」、「みんなの協力」、「助け合うことの大切さ」、これが一番大切だと思った。
- ・チームで一つのプロジェクトを進めていく楽しさと難しさ、そして絆。
- ・一人ひとりが動かなければ、輪が乱れるということ（一人ひとりが持つ責任の重要さ）。

《企画と実践》

- ・確かな目標に沿った企画を立ち上げ、計画をきちんと立てることの大切さや難しさ。
- ・早めの行動と、臨機応変に計画を変更する柔軟性。
- ・自分が思っていたことがなかなか進まず、企画の大変さ。

《スキル、責任感》

- ・周りを巻き込んで動くときに必要なスキル（広報の重要さ、伝える技術等）。
- ・人に自分の作品を見てもらうことの責任や大切さ。
- ・プレゼンテーション等、どのようにしたら人に自分の思いを相手に分かりやすく伝えられるか。
- ・行う内容が明確でないと、行動できないということ。
- ・相手にどのように伝えるか、表現の幅が広がった。

《その他》

- ・たくさんの人と触れ合うということが素敵！だということ。
- ・外部と一緒に何かを行うことの大変さと楽しみ。
- ・地域の方々に、県立大学の活動を知ってもらうことができた。
- ・地域との繋がりをもちながら生活しているのだと、山口の良さを再認識した。

◎ プロジェクトを実施する過程で、困ったこと等があれば具体的に書いてください。

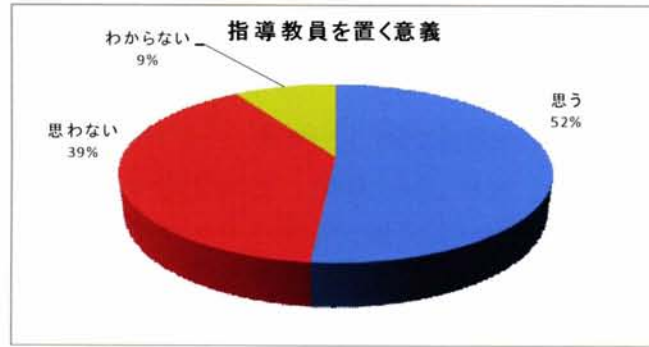
《補助金、領収書等》

- ・各地で開かれるイベントに行くとき、物理的、金銭的に不便を感じた。
- ・公共交通機関（バス）を利用した際に、領収書をもらえなかったこと（2人）。

《学外との渉外》

- ・商品の加工、提供をする際の保健所の基準が不明で、とても困った。
- ・学外と連携するための、最初のネットワークづくり。

◎ 指導教員を置くことに意義があると思いますか？



「思う」 17名

- ・外部との交渉時、礼儀ややるべきことをチェックしていただいた（4人）。
- ・豊富な経験を通してのアドバイスや指導をいただいた（9人）。
- ・分からないときに、先生に尋ねることができるから（2人）。

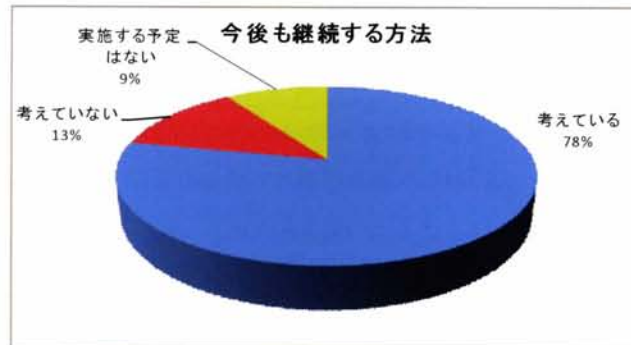
「どちらともいえない」 13名

- ・教員の手助けは良かったと思うが、学生主体でやることなので、必要性に疑問を感じる。
- ・学生たちだけでは気付かない視点で物事を見ることができる反面、いない方が学生たちの責任感、自覚がより生まれるとも思う。

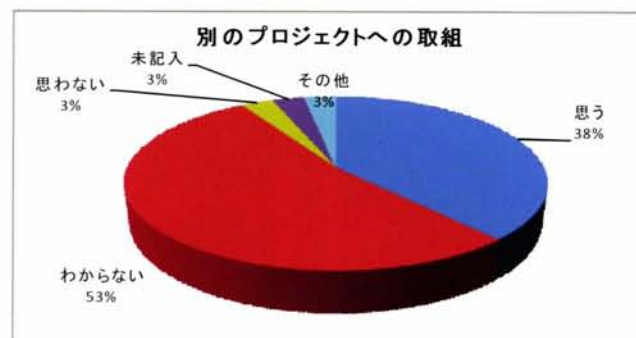
「わからない」 3名

- ・他学科の指導教員で繋がりが薄く、よく知っているメンバーにコンタクトを任せていたので。
- ・指導教員との関わりが無かったので、わからない。

◎ 今後もプロジェクトを継続していく方法を考えていますか？



◎ また別のプロジェクトに取り組んでみたいと思いますか？



選考委員からのコメント

A-1 YPU TFT PROJECT～To もに Fu れあい Tsu ながろう～

- ・TFTのことをもう少し説明して報告すると、全体像が見えてくると思う。
- ・「食」という身近な活動を起点としながら、“健康”、“人の絆”、“社会的広がり”など、TFTプロジェクトの持つ魅力と可能性がよく伝わってきた。これからも学内に根付くことを願っている。
- ・地域の人をも巻き込んだ、とてもアクティブな活動。
- ・様々な方向に発展できる可能性を持ったプロジェクトであり、今後の更なる取組を期待する。
- ・寄付金がどのように渡ったかの確認があるとなお良い。
- ・「つながる」をキーワードに活動を進められたが、全学科、高校生、地域、みんな、九州で、それぞれ何が良かった、問題だったかを検証すると、次の活動のときに参考になると思う。

A-2 ぶちええじゃんブログ型山口マップ 韓国語版

- ・山口の「いい所調査」で、何が見つかったかを報告すると、共感が得られると思う。
- ・県内の資源の再発見につながる。
- ・実は今回の発表前にブログを訪問してみたら、プレゼン画面より写真がとても綺麗で、レイアウトも努力感があつた。
- ・ブログは更新してこそ、多くの人が見てくれるものなので、これからは積極的に取り組んでほしい。
- ・その人独自の視点やオリジナリティを加えることも必要。
- ・ブログならではのメリット、デメリットをよく理解した上で活動している。
- ・もう少し工夫、面白みを加えて、何回も見たいと思われるようなブログにしてはどうか。
- ・今後の更新作業に関する予算は、情報収集の方法を考えれば大丈夫なのではないか。

A-3 La ferme de ceries～県大ばたけ～

- ・自給自足の大切さ、生きていくことに必要な経験をされたことがよくわかった。
- ・自然の力や農業の魅力、心の安らぎなどを現代の若者が感じて楽しむ姿に、私が希望をいただいたようで、嬉しくなつた。
- ・土を耕すことが楽しく、多くのことを学ぶことができた。土に触ってみたいという学生が多い。
- ・とても素晴らしい活動だと思うので、今後も継続してほしい。
- ・地域の野菜作りのプロ(おじいちゃん、おばあちゃん)にアドバイスをもらいながら、さらに収穫の際には、小学生などを招くなどしてはどうか。
- ・今後、畑を拡大していくつもりか。
- ・他の取組との連携により、更に飛躍できるプロジェクトである。



[2010年1月21日(木) 成果報告会]

A-4 ピアサポーターによる『県大ライフサポートマップ』制作！！

- ・伝えたいという意向がとてもよく感じられる発表だった(実物が間に合わなかったのが残念)。
- ・マップも手描きとカラーで、情報も絞られていたので見やすい。
- ・先輩からの口コミなど、県大生らしさが出ていた。
- ・もし、ピアサポートにとって、マップ作りを活動の柱の1つに今後位置付けられるのであれば、地域の自治会や商工会などとのタイアップも検討してみてもいい。
- ・作成されたマップを、どのように有効にピアサポートに活用していくのかが少し不明確であった。
- ・ピアサポートの連絡先を記入すると良い。悩みや話を聞いてほしいときに、どこに連絡すれば良いかわからないので、個人の学生でなく、学部など、大学の機関でも良いと思う。
- ・新入生のニーズも踏まえながら、更なる充実が期待される。

A-5 “すきっちゃんユズキチ”プロジェクト

- ・プロジェクトの方向転換をしたことがとても良いと思う。
- ・本当に“ユズキチ大好き”ならば、県庁食堂、ブログUPなど、もっとあちこちへアタックする手があると思う。
- ・ソフトクリームで使っていたジャムはとても美味しかった。ユズキチの性質上保存が効かないということを知ったが、期間限定メニューでも良いので、商品化を狙えないだろうか？
- ・今回の発表の中で、栄養学科の学生さんの“澆刺さ”と“食”に関わる活動の多さに、元気の源を見た感じ。他学部や地域への広がりを視野に入れて展開されることを期待している。
- ・予算をしっかり使ってほしい。また、予算充填に見合った計画に修正することも必要だったと思う。

B-1 県大生クリエイターの実績づくりをしよう！

- ・発表の場が与えられたことで、自分たちの中の何がどのように変化していったのか、メリハリを持たせた発表だともっと良かったのでは。
- ・写真や作成風景などを入れて、スライドをもう少し工夫すると良いと思う。
- ・何から何まで、自分たちが企画して展開することの大変さと充実を味わったことと思う。
- ・自分なりの音符を書くブースを設けるなど、一人一人が楽しめて良いと思う。
- ・やりたいことをやる楽しさ、チャレンジする姿勢を今後も忘れずに活動してほしい。
- ・「アートふる」での反省を華月祭では改善し、地域に根差した活動に。
- ・大学祭のときに、絵や写真、衣装、手工芸品などを見せていただいた。楽しむことができる感じの作品なので、仲間内で学内同好会やオープンスペース企画などを行ってはどうか？



YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009

選考委員会名簿

学長	江 里 健 輔
副学長	三 島 正 英
事務局長	伊 嶋 正 之
外部委員 (NPO 法人 市民活動さぼーとねっと 代表理事)	於土井 豊 昭
学生支援部長	田 中 マキ子
学生委員会代表	内 田 充 範
学生委員会代表	永 本 隆
学生支援グループリーダー	松 田 和 也
学生代表 (平成 21 年度 学生自治会長)	合 田 有 妙

まもなく募集開始！！

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2010

YPU^{*}ドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生活をさらに楽しく豊かにするために、学生（個人やグループ）が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助することで夢の実現を支援する事業です。

平成18年度から始まった取組も4年目を迎えました。毎年、学科・学年を越えたさまざまなプロジェクトが活動し、学生たちの新しい発想が大学を活気づけています。

平成22年度もまもなく募集を開始します。さらなる団結と充実をはかるために、サークルや学科、学年を越えたチームでの応募も大歓迎です。どうぞふるってご参加ください。みなさんの夢を実現しましょう！



応募期間：平成22年4月中旬～5月下旬

※詳しくは、学内掲示または学生活動支援センターのホームページをご覧ください。

*YPU：Yamaguchi Prefectural University（山口県立大学）の頭文字をとったもの

発 行 公立大学法人 山口県立大学
学生活動支援センター

発行日 2010年3月

電 話 083-928-3478

URL <http://blog.ypu.jp/gakukatsu/>